５文京盲第１８６９号
令和６年３月３１日

令和５年度　東京都立文京盲学校　学校経営報告

校長　　山　岸　直　人

Ⅰ　今年度の取組と自己評価

前年度に引続き、「自立と社会参加を目指し、希望する進路を実現する学校」を「目指す学校」として掲げた。今年度は、令和５年５月に国内における新型コロナウイルス感染症（COVID－19）の「感染症の予防及び感染症の患者に対する医療に関する法律」（通称：感染症法）上の分類が２類から５類へと移行し、社会全体の閉塞感が大きく打破されたことに伴って、本校においても生徒の笑顔や意欲、充実感・達成感などがより鮮明に表れる一年間となった。また、教職員も一人一人が自己の職責を自覚し、安全・衛生・健康などに引続き留意しつつ、視覚障害教育の専門性に基づく指導とその維持・継承・発展を図るとともに、教育活動をはじめとする学校運営全般に組織的に取組み、以下の成果や結果が得られた。

Ａ　教育活動への取組と自己評価

１　生徒の確かな成長を支えるために

⑴　生徒理解

ア　生徒のアセスメントを年１回以上実施し、個別指導計画や年間指導計画などの諸計画の充実を図りながら、日々の指導に取組むことができた。

イ　生徒の実態に即した教育環境の整備を行うとともに、定期的な安全点検や校内美化を実施し、安全面の維持や実態の変化への適応を図ることができた。

ウ　週ごとの指導計画の作成と評価を通して、成果と課題を踏まえた計画や手だての修正などを随時行い、指導の一層の充実を図ることができた。

エ　学校生活支援シート、個別指導計画の作成と評価において、保護者面談等を通して十分な連携と共通理解を図るよう努めた。

オ　年度末には、生徒に関する情報を確実に引継げるよう、担任・担当者間や新入生の出身校との引継を実施し、次年度への指導の一貫性や連続性の確保に努めた。

⑵　学習指導

ア　生徒が成果を実感できるような指導を行うとともに、新学習指導要領の年次進行などの今日的な対応も充実させ、学習活動を推進することができた。

イ　生徒の実態や課題に応じた教材・教具の活用、自作教材の作成と開発に努め、全ての教員が多くの教材を活用して指導することができた。

ウ　保健体育の授業において、多くの視覚障害スポーツに取組んだ。また、東京都教育委員会「多文化共生海外派遣研修」（フランス共和国（パリ））に、生徒２名が参加した。

エ　適切な援助依頼の方法の取得と関連して、様々な困難やストレスの対処方法を身に付けるための教育（ＳＯＳの出し方に関する教育）を生徒の実態に応じて行った。

オ　外部の検定・大会・作品展に多くの生徒が取組んだ。合格や入賞など、多くの生徒が優秀な成績や成果を収めることができた。

カ　授業参観や各種行事には、多くの保護者・御家族が来校された。生徒の取組や実態について御覧いただき、共通理解を図ることができた。

⑶　生活指導

ア　いじめ・体罰の未然防止に向けて、聞き取りや質問紙による状況把握を年４回行った。次年度はスクールカウンセラーも導入し、相談機能体制をより向上させる。

イ　安全教育プログラムの内容を踏まえて、月１回及び随時の安全指導を行うとともに、セーフティ教室を通して、犯罪被害防止に向けた対策を理解することができた。

ウ　年間を通して避難訓練を実施したほか、９月には一泊二日宿泊防災訓練を実施し、普通科２年生が防災意識を高めた。地域との連携や宿泊への参加については、今後検討を図る。

エ　白杖を用いた歩行指導、一人通学の指導、又はその前段階の指導を、一人一人の実態や通学方法に応じて行うことができた。

オ　総合的な体力・健康づくり、食育の推進に努めた。また、保護者との連携のもと、食物アレルギー等への具体的対応を、組織的かつ確実に取り組むことができた。

カ　医療的ケアを必要とする生徒は０名であった。対象者が今後生じた場合は、保護者や関係機関との連携のもとに実施していく。

⑷　進路指導

ア　職業や進路に関する見学・体験を積極的に実施したほか、校内における日々の係活動や分担された役割の遂行などを通して、将来への展望と働く意義の理解を深めることができた。

イ　関係諸機関との連携は、生徒の障害や適性、能力等を十分考慮し、学級担任、進路指導部、保護者と綿密な連携を図りながら、進路指導を行った。

ウ　個に応じた就業体験（インターンシップ）や現場実習などを、関係諸機関の御協力を得ながら実施することができた。

エ　放課後や長期休業日中の補習など、希望する進路の実現に向けた個別の指導を行い、普通科３年生全員の進路決定、専攻科３年生全員の国家試験合格を果たすことができた。

⑸　特別活動

ア　各種学校行事（事前・事後学習を含む）を計画的かつ円滑に実施した。再開や規模を拡大した行事も多く、集団活動の喜びを味わうとともに、連帯感を深めることができた。

イ　普通科生徒会と高等学校及び日本語学校との交流、専攻科の臨床実習等を通して、他者と関わり合うことの意義を理解するとともに、楽しさや自己有用感を味わうことができた。

ウ　文化系、運動系ともに、多くの生徒が部活動に参加した。各種大会等への参加や外部施設での見学、校内での相互研さんなど、生涯学習・スポーツの意欲を育てることができた。

⑹　寄宿舎における指導

ア　学部や家庭との連携のもと、基本的生活習慣の習得と確立を図るとともに、異年齢集団での遊び・話合い活動や舎友会活動の経験を通して、自立心の育成を図ることができた。

イ　行事や舎外活動を通して、地域との交流を行った。また、保護者参観・面談等を通して、共通理解を図ることができた。

⑺　ＩＣＴ機器の活用

ア　各種機器の利用や統合型学習支援サービスの活用において、一定の向上が見られた。今後も、ＩＣＴ環境整備と利活用の両面で更なる充実を図る。

イ　今年度から、教科「理療」についてもＰＤＦ版教科書デジタルデータが給与可能となった。普通科・専攻科ともに希望者へ提供し、学習面での活用を図ることができた。

２　地域と共に成長するために

⑴　理解啓発と情報発信

ア　地域の高等学校等との交流及び共同学習、近隣施設の利用、専攻科の臨床実習などを通して、視覚障害児・者、視覚障害教育に関する理解の充実を図ることができた。

イ　学校Ｗｅｂサイト（ホームページ）や外部向け行事、施設開放などを通して、地域等への情報発信と理解充実を図ることができた。ＳＮＳの活用については、改善の余地がある。

ウ　視覚障害児・者、視覚障害教育に関する各種調査に可能な限り協力した。今後も、視察の受入なども含めて協力し、盲学校への関心をより高めることに寄与したい。

⑵　センター的機能の発揮

ア　各種の相談対応では、当該の生徒・成人及びその保護者・家族に対して、気持ちに寄り添いつつ、丁寧な助言・支援に努めた。

イ　他の盲学校や弱視通級指導学級とは、進路指導や研究・研修等の側面からも連携を図ることができた。今後も視覚障害教育の高い専門性に基づく丁寧な助言・支援に努める。

３　教職員の力量を高めるために

⑴　学校運営と人材育成

ア　＜生徒理解＞いじめ・体罰等に関する研修を実施し、いじめ・体罰の未然防止や自殺予防と人権尊重の精神に基づく指導に反映させた。

イ　＜学習・生活・進路指導、特別活動＞研究授業と評価、各種計画等の改訂、各種会議・研修等を通して、教職員の知識・技能を高め、実際の指導に反映させた。

ウ　＜学習指導＞「授業改善推進プラン」を作成したが、授業研究連携校との相互連携までには至らなかった。次年度は確実に実施し、授業改善の取組を一層充実させる。

エ　＜寄宿舎における指導＞寄宿舎と学級担任とのケース会を各期の開始時に実施したほか、情報交換を随時行い、寄宿舎と学級担任・学部との密な連携と確実な情報共有を図った。

オ　＜ＩＣＴ機器の活用＞各種機器やシステム・ソフトウェアの操作の習熟に努め、実際の指導に反映させた。次年度以降も、デジタル教材や３Ｄ教材の開発と活用に努める。

カ　＜教職員としての基本＞服務事故防止研修等を通して、全教職員が服務の厳正に十分留意して、職務を遂行することができた。

キ　＜学校資産の効果的な活用＞予算や学校徴収金を適正かつ効果的に執行・活用するとともに、日々の検針・点検を通して、施設・設備の保全と環境保護・省エネルギーに取組んだ。

ク　＜教員の専門性向上＞各科の研究・研修活動を研究集録にまとめた。特別支援学校教諭免許状（視覚障害領域）は、引続き全教員取得を目指す。

ケ　＜教職員のライフ・ワーク・バランス＞夏季休業日を中心に、学校閉庁日を実施した。また、日常的な時間外在校時間は、一定の縮減があったが、更なる継続的な取組が必要である。

コ　＜学校評価＞学校運営連絡協議会、授業評価協議会や生徒、保護者による様々な意見や評価を踏まえ、今後も、学校運営、教育活動等の更なる充実・改善を推進する。

Ｂ　重点目標への取組と自己評価

（「項目」欄の番号・記号は、Ａの番号・記号に対応する。）

（「評価」欄の凡例 … ◎：目標を超えて達成、○：おおむね達成、△：未達成）

項目			事　　項	目標（数値、時期等）	評価	実績・備考
1	⑴	ア	個別指導計画、年間指導計画の作成	１００%	○	
		イ	教室等環境整備の点検	月1回	○	
			生徒の安全確保、事故の防止	随時、事故発生0件	○	
		ウ	週ごとの指導計画の作成と評価	週1回	○	
		エ	学校生活支援シート、個別指導計画作成時の保護者参画	１００%	○	
		オ	引継事項の明確化と確実な引継	年度末	○	
	⑵	ア	日本の伝統・文化教育、環境教育、芸術教育等の推進	通年	○	
			主権者教育、消費者教育、金融教育等の推進	通年	○	
			言語活動及び読書活動の充実（学校図書館等の活用）	通年	○	
			外部人材・地域資源の有効活用による資質・能力の育成	通年	○	
		イ	自作教材の作成と活用	全員２点以上	○	
		ウ	視覚障害スポーツに関する授業（学校２０２０レガシー）	年3競技以上	◎	５競技
		エ	ＳＯＳの出し方に関する教育	年１単位時間又は日常の指導	○	
		オ	実用英語技能検定、日本漢字能力検定等の受検の推奨	通年（6回）	○	
			各種スポーツ大会、作品展示会、音楽発表会等への参加の推奨	通年（6回）	○	

項目			事　　項	目標（数値、時期等）	評価	実績・備考
1	⑵	カ	授業参観	年3回	○	計５日間
	⑶	ア	いじめ・体罰の状況把握	年4回、発生0件	○	
			心の健康相談による、生徒及び保護者支援	月1回	○	
		イ	セーフティ教室	年1回	○	
		ウ	避難訓練	月1回	○	
			一泊二日宿泊防災訓練	年1回	○	
		エ	登下校通学指導、一人通学指導	年度当初及び随時	○	
		オ	給食におけるリクエスト献立	月2回程度	○	
			給食等におけるアレルギー対応	随時、関連事故発生0件	○	
		カ	医療的ケア対応	随時、関連事故発生0件	―	対象者なし
	⑷	ア	進路先見学会の実施	各学年2回以上	○	
		イ	進路指導に関する保護者向け説明会、	各学年2回以上	◎	３回
		ウ	就業体験（インターンシップ）、現場実習	希望進路によって年1回以上	○	
		エ	長期休業中の補講、補習、実習等	４０講座以上	◎	８８講座
			普通科３年生の進路実現	１００％	○	
			専攻科３年生の国家試験の合格	１００％	○	
	⑸	ア	儀式、文化、集団宿泊的行事の円滑な実施	通年	○	
			主体的な学校行事への参画	生徒満足度８０％以上	○	８１％
		イ	地域交流校との交流	年1回	○	
		ウ	部活動の充実	加入率９０％以上	△	８０％
	⑹	ア	舎友会活動（運営委員会主催行事）	年2回	○	
			青年期活動Ⅰ・Ⅱ	各月1回	○	
		イ	寄宿舎参観	年1回	○	
	⑺	ア	ＩＣＴ機器（特にタブレット端末）やデジタル技術の活用	随時	○	
			点字ディスプレイの活用	希望者全員	○	
		イ	教科書デジタルデータの活用	希望者全員	○	
2	⑴	ア	地域交流校との交流（1⑸イの再掲）	年1回	○	
		イ	学校Ｗｅｂサイト（ホームページ）の更新	年２００回（Ｘ（旧Twitter）を含む）	△	計１０１回
			学校紹介リーフレット作成・配布	２０００部	○	
		ウ	外部機関からの視察依頼・協力依頼への対応	随時	○	
	⑵	ア	コーディネーター等による関係諸機関等への相談支援	年１００回（入学相談対応含む）	○	
		イ	「東京都ロービジョンケアネットワーク」への参加・協力	年間を通じて随時	○	
3	⑴	ア	いじめ対策委員会	年2回	○	
			いじめ、体罰防止、自殺予防等に関わる校内職員研修	年2回	○	
		イ	全教員の研究授業と評価	年1回又は所定回数	○	
			アレルギー対応委員会、アレルギー研修	月1回、年1回以上	○	
			学校保健委員会・研修会	年2回	○	
			衛生指導、感染症予防及び健康教育に関する研修	年1回	○	
			不審者対応訓練	年1回	○	
			防災教育推進委員会（避難訓練の参観を含む）	年2回	○	
		ウ	授業改善推進プランの作成、授業研究連携校との相互連携	年5回	△	
		エ	寄宿舎と学級担任・学部との情報交換	随時	○	
		オ	ＩＣＴ機器を活用した授業の学習効果の検証	年2回	○	
		カ	服務の厳正、個人情報の保護等に関する研修	年3回	○	
			教職員の言葉かけ、服装等の身だしなみの改善	随時	○	
			企画調整会議、主幹会議	いずれも週1回	○	
			進ちょく表による学校経営計画の進行管理	年6回	△	３回

項目			事　　項	目標（数値、時期等）	評価	実績・備考
３	(1)	キ	適正な学校予算の執行	一般需用費の学校経営支援センター契約率：５０%以上	◎	62.1%
			光熱水費に係るメーターの検針	毎日	○	
			不要箇所の消灯、ガス閉栓等	毎日	○	
		ク	新転任者研修	年４０回	△	２７回
			科ごとの研究会	月１回	○	
			視覚障害教育夏季専門研修への参加	延べ８０人以上→５０人以上（講座数減により）	△	３７人
			外部講師を招聘した教育研修会	年3回	◎	8回
			特別支援学校教諭免許状（視覚障害領域）	取得済８０%、認定講習未受講０%	△	７８．４%
		ケ	教職員の在校時間の縮減	「定時外在校４５時間／月」超過者：１０%未満	△	１２．１%
			学校閉庁日	年5日	○	
			定時退庁日	月2回	○	
			職員健康診断受診率	１００%	△	９６．９%
		コ	学校運営連絡協議会	年3回	○	
			保護者評価（アンケート）	回収率９０%、満足度８０%	△◎	８２%、９２%
			授業評価協議会	年3回	○	
			生徒による授業評価	年2回	○	

Ⅱ　次年度以降の課題と対応策

１　新学習指導要領の確実な実施

令和４年度から年次進行により改めている教育課程は、次年度の各科第３学年での実施により移行を完了する。各学年の教育課程を確実に、かつ、よりよく実施するほか、成果や課題の検証を行い、令和７年度以降の教育課程や年間指導計画等の修正に反映させる。

２　ＩＣＴ機器やデジタル技術の更なる活用

統合型学習支援サービスやＰＤＦ版教科書デジタルデータの活用など、今年度も一定の向上が見られた。次年度も、デジタル教材や３Ｄ教材の開発と活用など、デジタルサポーターとの連携のもと、検討や実践を行うとともに、視覚面から生じる活用上の課題を集約し分析する。

３　本校（盲学校）の魅力の更なる発信（広報活動の充実）

学校Ｗｅｂサイト（ホームページ）やＳＮＳの意図的・計画的な運用により、本校（盲学校）の取組をより積極的に発信する。また、公開行事の継続実施や外部機関の催事への協力、東京都ロービジョンケアネットワークでの連携などにより、視覚障害児・者との接点をより明瞭にする。

４　働き方改革の推進

教職員の在校時間の縮減については一定の成果が得られたが、教職員の業務改善、会議等の精選・効率化は引続く課題である。中期的に教職員数が減少する可能性も踏まえながら、各部署での業務内容の精査と、分掌再編などに向けた検討を進める。